

城のある都市復活

# 福岡城だより

2012.10  
OCTOBER  
NO. 35



福岡流おもてなし  
久留百合子

福岡市民の会理事

（消費生活アドバイザー）



岡市総合計画審議会と  
福岡市自立分権型行財

政改革有識者会議とい  
う福岡市のこれからを

決める重要な会議が進  
行しています。どちら

も、9月～10月には中間答申が出され、パブリックコメントを取り、さらに内容を練っていく段階に入っています。

私は、5月から始まった後者の行財政改革の委員をしている関係から、特に今年は我が街である福岡市のことを考える機会を多くもつことになりました。

私は、5月から始まった後者の行財政改革の委員をしている関係から、特に今年は我が街である福岡市のことを考える機会を多くもつことになりました。

総合計画と行財政改革は車の両輪。福岡市の未来を描きながら、改革すべきところは改革していく。しかしこれまでのよう形だけのパブリックコメント収集ではなく、市民一人一人が係わって作り上げて行く気運が盛り上がっているように感じています。

福岡市は世界で最も住みやすい都市の12位（イギリスグローバス情報誌モノクルによる）に選ばれるほど住みやすい都市だと言われています。自然が身近で食べ物がおいしく、交通の便が良く適度に都会などなどが好評価の理由のようです。

他方、福岡のソフト面はどうでしょうか。安全な街でしょうか、文化度は？交通マナーはどうでしょうか、他から来られた方々におもてなしの心で接しているでしょうか。

これからは、都市機能の充実も重要ですが、これが語れる「おもてなしの心」が大事なのではないでしょうか。

そのような意味でも「鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会」の活動には、これから福岡をアピールしていく上でも大いに期待するところです。

# 「新しい公共・福岡城・鴻臚館の将来に向かう市民参加プロジェクト」2年目がスタート!

福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会 会長 石井 幸孝

◆今、なぜ「新しい公共」なのか—福岡城の「樹木」と「石垣」のお話を例にとって—

国家的文化財であり、市民と地域の貴重な財産、一等地にある福岡城・鴻臚館をもつと活用して、地域の発展に繋げる時がきました。

国の史跡に指定されて50年以上が経ちました。

セントラルパーク構想はじめ、幾たびかの構想計画が福岡市、同教育委員会で作られましたが、復元整備という点では不審火にあつた下ノ橋御門の復旧程度に過ぎません。では、現状のまま維持されてきたかというと、そうでもないのが樹木です。2年は現状維持のように見えても、50年経つと石垣を覆う密林のようになってしまいました。でも、見方を変えると、大都会の都心に出現した緑のオアシスとも言えます。(陸軍管轄時代の鳥瞰図や写真と見比べるとよく解ります)

山陽新幹線の開業から35年以上経ち、博多が途中駅になり、全国の観光客が博多を素通りして、中九州や南九州に向かっています。福岡で降りてもらう観光客を増やしたいものです。外国からの大型クルーズ船のお客様にも福岡観光をしてもらいたいものです。それには全国の皆さんか、「福岡といえば○○がある」と解りやすく覚えて貰えるランドマークが必要ですが、福岡城・鴻臚館こそ最も有力な候補です。

こんな時に「新しい公共」(4年前から)で、当初は「新たなる」と呼ばれていた)が国の方針として打ち出されました。従来は、市民は行政の一元的な計画に依存していましたが、これでは多様なニーズに立ち行かなくなってきたからです。さきほどの「史跡福岡城の樹木の話」です。(石垣を守るために「木を切れ」(Aさん)、「木を切るため」「木を切るな」(Bさん)どちらも市民の真摯な意見です。「どちらも「全部切れ」「一本も切るな」と言つてゐるわけではないでしょう。)でも、AさんとBさんが話をつて答えを出そうとしたことがあるでしょう。これまで、Aさん、Bさんの意見が、直接間接に、個別に、

違う責任箇所に行くと、どちらも結論が出にくく、また構想委員会等でも抽象的な考え方の域を出ません。その結果、樹木のほうも現状維持で50年が経つて前述のようなことになります。これでは、行政を悩ませるだけで、市民も無責任といえるかもしません。両意見の市民が互いに話合つて、多年の難間に解決のきっかけをつくりたいのです、そういう場作りが「新しい公共」であります。

今年度は市長の英断もあって、経済・観光文化が一体化する組織変更も行われ、福岡城・鴻臚館の将来に向けての前進の大きなチャンスがきました。

今年度の「新しい公共」では、重要テーマとして「グランドデザイン」をつくり、実行されることを取り上げました。まとめるだけが目的ではありません。それをつくるプロセスが市民とともにあります。

今年度の「新しい公共」では、重要なテーマとして「グランドデザイン」をつくり、実行されることを取り上げました。まとめるだけが目的ではありません。それをつくるプロセスが市民とともにあります。さらに市民の意見で常に生き生きと変貌つつ、実行されることが重要です。グランドデザインは作成途中から市民の皆さんやトップにも見てもらい、参画してもらい、実行者になつてしまいのです。グランドデザインは市民と行政が共有しつつ、協働していくものです。

「新しい公共」は、行政にとっても市民にとっても、従来にない考え方です、とまどいがあるかもしれません。そのため、国もモデル支援事業として予算を組んでくれました。「新しい公共」「福岡城・鴻臚館の将来に向けた市民参加プロジェクト」を成功させるための具体策を、委員・関係者は勿論のこと、市民の皆さんを考え、提案していただきたのです。われわれも国民の税金からいただいた、2ヶ月間にわたる支援金を無駄にすることは許されないのでしょう。

◆平成24年度の具体的活動  
7月から、平成24年度、二年目のモデル事業がスタートしました。毎月開催の実行委員会と、「企画分科会」「まち歩き分科会」「まちづくり分科会」「ウォーキング分科会」が精力的に検討を始めました。

「企画分科会」ではこの市民参加プロジェクトの「グランドデザイン」をまとめ実行

していくリード役が大きな役割です。「グランドデザイン」とは単なる「ビジョンづくり」ではなく、それを実行する課題や問題点も示します。「グランドデザイン」は検討途中から、市民に開示して意見を集約していくます。2ヶ月間のモデル事業は、平成25年度以降もプロジェクトの「実行委員会」を継続させることを前提に、国からの支援金を頂いているわざですから、25年度以降の進め方も検討します。

「市民がやることに参加する」「市民が盛り上がりをつくることに参加する」ことで、新しい取組みが期待されているのです。実行委員会には行政・団体・企業・NPOが参加しており、そのような取組みを協働提案し、支援もします。勿論行政なども独自に計画を推進することがあるわけで、「グランドデザイン」とは必ずしも一致しないことがあります。あるのも当然で、新時代のあり方である「新しい公共」の正しい理解が関係者に与えられます。

協働事業に今後継続していける基礎作りの、平成24年度モデル事業になります。

「新しい公共」のこれまでの流れ  
平成20年度に政府の方針として、新しい「国土形成計画」(10年ビジョン)で「新たな公」を打ち出しました。当初は「新たな公」(新たな公・選定事業)で「市民参加の古代官道調査・活用事業」(鴻臚館関連事業)をNPO鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会で実施しました。

平成21～22年度には「福岡城・鴻臚館の官民共働勉強会」が開催されました。これが現在の実行委員会の母体になつています。そして、平成23～24年度に「新しい公共モデル支援事業」(内閣府・福岡県)として「福岡城・鴻臚館の将来に向けた市民参加プロジェクト」(福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会)が選定され、今日に至っています。

「新しい公共」方式での「福岡城・鴻臚館」活性化取り組みは、多年の難間に市民目線で規則・慣例の枠を超えた大胆な答えが出せる効果が期待されます。政府の方針にもあるように、そのような市民感覚を前面に出すために小回りの利くNPO等の強化も

「福岡城・鴻臚館」と市民との一体感・郷土愛の醸成につなげ、「新時代の市民・行政協働事業」に今後継続していける基礎作りの、平成24年度モデル事業になります。

「新しい公共」のこれまでの流れ  
平成20年度に政府の方針として、新しい「国土形成計画」(10年ビジョン)で「新たな公」を打ち出しました。当初は「新たな公」(新たな公・選定事業)で「市民参加の古代官道調査・活用事業」(鴻臚館関連事業)をNPO鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会で実施しました。

平成21～22年度には「福岡城・鴻臚館の官民共働勉強会」が開催されました。これが現在の実行委員会の母体になつています。そして、平成23～24年度に「新しい公共モデル支援事業」(内閣府・福岡県)として「福岡城・鴻臚館の将来に向けた市民参加プロジェクト」(福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会)が選定され、今日に至っています。

## 「福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会」の委員・監事

平成24年7月1日現在 (50音順・敬称略)

会長 委員 石井 幸孝 (NPO法人 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会)
副会長 委員 磯村 正人 (西日本鉄道株式会社)
委員 伊藤 裕司 (福岡市経済観光文化局観光コンベンション部)
委員 大谷 雄一郎 (福岡市住宅都市局みどりのまち推進部)
委員 岡嶋 洋一 ((公財)福岡観光コンベンションビューロー)
委員 岡部 崇 ((社)福岡青年会議所)
委員 濱田 史郎 (九州電力 (株))
委員 藤尾 浩 (福岡市経済観光文化局文化財部)
委員 松本 法雄 ((公財)福岡アジア都市研究所)
委員 右田 喜章 ((株)ホークスタウン)
委員 三角 薫 (福岡商工会議所)
監事 吉田 恵子 (福岡市中央区役所)
監事 田中 寛治 (田中公認会計士事務所)
監事 寺崎 横一 ((株)福岡銀行)



近づいてみると、多聞櫓南角櫓の現況



ほぼ同じ方向の現在…多聞櫓は全く見えない。(練兵場はバス通りと駐車場になっている)



陸軍時代の城内風景…練兵場から多聞櫓方面を見たもの(射撃訓練の板で櫓が半分隠れているが、木が少なくてよく見える)(福岡城 List より)

# 福岡城探訪

## 黒田家菩提寺

### 「浴衣deてくてくお城めぐり」

## 福岡城上の橋 石垣修復工事始まる！

## 「南岳山 東長寺」



博多駅から真っすぐ伸びる大博大通りの六百メートル先の東側に博多祇園山笠で二番目の清道が建つ東長寺がある。このお寺は我々が大切に頑張っている福岡城に大変な結びつきがある。

その一つは、日本でここしかない跡地として発掘中である「鴻臚館」

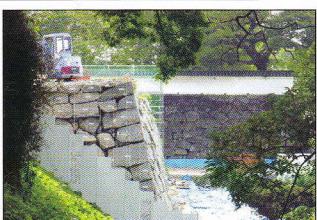
とのゆかりがある遣唐船によつて唐に渡った空海（弘法大師）が長い修行の結果、再び博多に帰り、学んだ仏教の教義を日本列島の東へ長く伝わる様にと真言宗の行を行つた。日本で一番古い靈場である。二つ目は黒田藩の二代目藩主忠之、三代目藩主光之に、八代目治高の大きな墓地

が境内の一画に祀られている。特に二代目忠之のお墓は五輪塔の形では日本で二番目に大きなお墓だと云われている。その他東長寺では別格本山にふさわしく日本一と言われる木造の福岡大仏に国宝の「千手觀音菩薩」や六角堂の文化財等弘法大師建立のお寺として

千二百年間の歴史を語る境内に昨年は純木造総檜造りで高さ二六メートルの美しい姿を加えた五重の塔が黒田家の歴代藩主の墓地の前に落慶した。九州八十八か所の第一の靈場だし三十六不動尊めぐりでは結願場として位置づけられている名刹である。

また柳生新影流の解説と演武を観賞した後、アメリカ・デンマーク・ドイツ等の留学生が、実際に木刀を手にしたり、刀の基本的な所作を学んだりと日本文化に触れるコーナーもあり貴重な体験となつたようです。

その後は、クイズの答え合わせや歓談をするなど国際交流も行われ、参加者の親睦を深める楽しい時間となりました。



福岡城には三ヵ所の城内に這入る橋があり面した福岡高等裁判所の横に旧平和台野球場に向かう橋がありました。そこを、お江戸に近いので「上の橋」。（伝）汐見橋が在るところを遠いので「下の橋」と称していました。この上の橋の御門を護つていた石垣が痛み、この7月25日より本格的な修復工事に入りました。築城400年余り大きな城壁、石垣の崩れはなかつたお城と自負していましたが、先の「福岡・西方沖地震」の折りに丁度警固活断層の真上に当たつたため福岡城上の橋石垣は大きなダメージを受け、一部通行に危険な箇所や、永年の樹木に根が大きく張り出し、石垣の曲線美が壊れ危険があるので、福岡市では文化財部整備推進課の手で修復工事に着手しました。完成は26年3月の予定です。人生生涯の中で石垣修復の現場は中々見る機会はありません。市側は「日々修復現場が見られるよう検討したい」と言っています。

福岡城むかし探訪館では、8月25日に浴衣姿で福岡城内を散策するイベントを開催いたしました。

浴衣や甚平姿で参加した約50人のうち、半数以上は外国人留学生で、グループごとにクイズラリーを楽しみながら、お城をひと回りしました。

福岡城には三ヵ所の城内に這入る橋があり面した福岡高等裁判所の横に旧平和台野球場に向かう橋がありました。そこを、お江戸に近いので「上の橋」。（伝）汐見橋が在るところを遠いので「下の橋」と称していました。この上の橋の御門を護つていた石垣が痛み、この7月25日より本格的な修復工事に入りました。築城400年余り大きな城壁、石垣の崩れはなかつたお城と自負していましたが、先の「福岡・西方沖地震」の折りに丁度警固活断層の真上に当たつたため福岡城上の橋石垣は大きなダメージを受け、一部通行に危険な箇所や、永年の樹木に根が大きく張り出し、石垣の曲線美が壊れ危険なので、福岡市では文化財部整備推進課の手で修復工事に着手しました。完成は26年3月の予定です。人生生涯の中で石垣修復の現場は中々見る機会はありません。市側は「日々修復現場が見られるよう検討したい」と言っています。

## 会員からによるよもやま話

### 福岡城跡に「不朽の命を」

城跡はやはり公園であると思う。公園には物語が不可欠。我々はなぜ城跡を訪れるのか。そこに歴史の痕跡があるから。往時を空想し、人それぞれ脳裏にその情景を描きロマンに浸れる時をすごす。そこには本物の世界があつたほうがよい。しかしそれだけでは、何か足りない。ロマンを搔き立てる契機となるものが必要に思う。何度訪れてもいつも新鮮で楽しく、わくわくする発見があり、居心地のよい時を過ごせる場所。そこに吹く風、木立のざわめき、溢れる光。四季を通じて季節感溢れる体験ができる場所。城跡という変化に富んだ人工物を陳腐な箱庭ではなく、幅広い来訪者に再訪を促す仕掛けをデザインする。その一つとして、「森の城公園」。都会のオアシス。広大な木々のデザインができる残された唯一の場所である。往時の正確な復元だけでは、そんなに魅力はない。未来に向かって息づく資産を実現してはいかがだろうか。そこに本物の城郭建築がパビリヨンのごとく我々を迎えてくれる。そして物語が生まれるとよい。

そのような城跡公園が国内にあるのではないか。機会があれば、それらを紹介し、福岡城に命を吹き込みたいと願う。

(会員 室川 康男)

## 第二回市民フォーラム

福岡城・鴻臚館を  
観光都市福岡のランドマークに

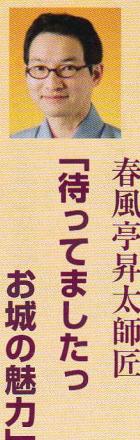
### 特別講演

お城のある風景 福岡城を  
熱く語っていただきます。



小和田哲男先生

「黒田如水と福岡城」



春風亭昇太師匠  
「待つてましたつ  
お城の魅力」

日時  
十一月一日（木曜日）

十四時～十七時  
(開演十三時三〇分)

場所  
福岡市役所 十五階講堂  
定員  
四〇〇名 入場無料

参加申し込みは、電話・ファックス・メール  
でお願いします。  
(定員を超えて、ご参加いただけない場合  
のみ返信いたします)

福岡城むかし探訪館前集合です。  
時間 午前九時～十時

TEL 092(716)8238  
FAX 092(716)8254  
E-mail : info@fukuokajokorokan.npgo.com

## 第一回「福岡城内クリーニング アップ作戦」開催

新規会員名簿（平成24年9月30日現在）

一般会員（個人）

一般会員（団体）

稻富隆之  
播磨の黒田武士

顕彰会

橋口トミー  
清長久志



### 城下町の今・昔

古地図・現代地図を片手に  
ガイドと一緒に、城下町を歩いてみませんか。

日時  
11月18日（日）十時～十二時三十分  
12月16日（日）十時～十二時三十分

集合場所  
日本銀行前  
参加費  
15名  
定員

お問い合わせ先  
(左記)



福岡城を見て、  
知つて考えていた  
だくための第一歩  
としてスタートし  
た清掃活動、今後  
も多くの市民の  
方々の参加をお待  
ちしています。

### 編集後記

福岡市や経済界も少しづつ福岡城に目を向け始めています。新しい公共が二年目を迎え、事務局も清掃活動やフォーラムを通して、市民の皆さんに福岡城を知って一緒に将来を考えていけることを願っています。今後ともご支援お願いいたします。

### 編集・発行 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル7階  
TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254  
HPアドレス <http://fukuokajokorokan.npgo.jp/>  
E-mail fukuokajo@tos.bbbq.jp  
[デザイン・印刷] 城島印刷株式会社

福岡市民の会

検索

